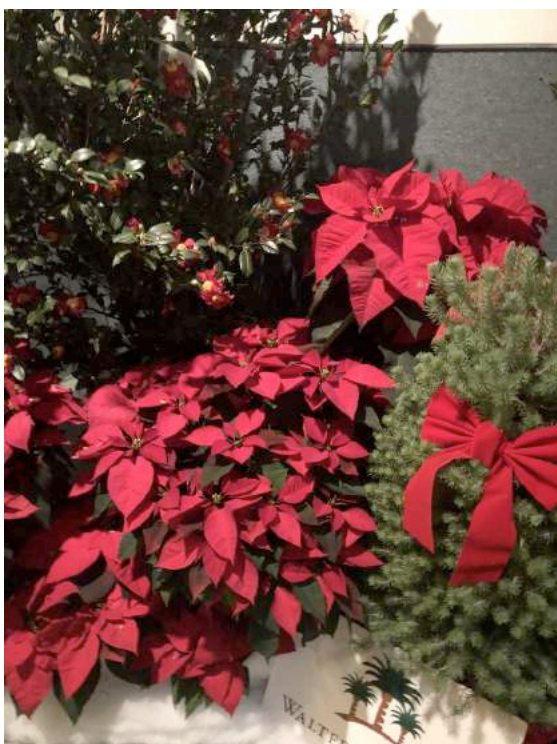


サンディエゴ日本人教会トピックス【2018年12月】

新年明けましておめでとうございます！謹んで新しい年のお喜びを申し上げます。



12月はイエス・キリストの御降誕を祝う沢山のクリスマス行事が催された月でした。先生方をはじめ教会員揃って神様のお恵みに満たされてイエス様の降誕を祝いました。

朝夕かなり寒さを覚えますが、ひんやりとした空気に、身も心も軽やかに日々すべての行事を滞りなく行うことが出来ました。先生方を始め皆様に心より感謝いたします。

その後、皆さんいかがお過ごしでしょうか。どうか希望に満ちた恵みの年となりますよう、皆さんの上に神様の豊かな御祝福をお祈りいたします。

今月のトピックスは次のものを掲載いたします。

1. 洗礼式とお証：プロクター礼花姉
2. クリスマス・ランチとクリスマス・プログラム
3. クリスマス・キャンドル・ライト・サービス
4. 年越し「そば・うどん」年末感謝会

1. 洗礼式とお証：プロクター礼花姉

サンディエゴ教会では12月23日(日)クリスマス礼拝が行われ、その礼拝の中で、大倉信牧師の司式によりマルチネス・ルイス兄とプロクター礼花姉の洗礼式が執り行われました。

礼拝後には八尋ホールで洗礼祝い会が持たれ、お二人のこれからの信仰生活の上に教会員の皆さんは祈りを持って彼らを支えあって行きましようとお励ましました。

新しいクリスチャンとしての歩みの上に神様の豊かな御祝福をお祈りいたします。彼らはどうしてクリスチャンになったかをお証ししてくださいました。その後婦人会で用意されたデコレーション・ケーキでお祝いし、皆さんの大きな拍手の中、共に喜びを分かち合いました。

お証：プロクター礼花姉

今日、洗礼を受けられたことを感謝します。前から洗礼を受けたいな～と思ってはいたけれど、10歳ではまだ早いな、無理かなと思っていました。なぜかと言うと、小さいころから洗礼は14歳くらいで受けるのかなと勝手に思っていました。けれども、大倉先生の話聞いていたら年齢や行動は関係無いことが分かりました。神様にお祈りをし、自分が決めた時ではなく、神様が決めた時に洗礼を受けることが大事だということが分かりました。

私が一番好きな御言葉は、詩篇19編105節「あなたの御言葉は、我が足の灯、我が道の光」です。なぜかと言うと、御言葉を思い出すことによって、いつも神様が私の道を示してくれるからです。例えば、マタイ5章44節「しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい」この御言葉はたとえ、学校で苦手な子に嫌な事をされた時、これを思い出し、落ち着いて行動することができます。

今年の夏に日本に行ったときに、東京で一番大きな教会であった、Torch という宣教大会に行きました。そこで驚いたのは、その時980人のクリスチャンが集まっていたことです。こんなにたくさんの方がそこで集まってもまだクリス

チャンは日本の人口の1パーセント未満だということに驚き、神様のことをもっと広めたいなと思いました。生まれ育ったこの教会で洗礼を受けられたことを感謝します。そして大倉先生とこの教会の方々にも感謝します。ありがとうございました。

2. クリスマス・ランチとクリスマス・プログラム



12月9日（日）は日英合同礼拝がもたれ、今年は本多一米牧師が”GOD’S LOVE FOR THE WORLD”と題してメッセージを取次がれました。御言葉は「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは神の子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」（ヨハネ3章16節）でした。

礼拝の後には、教会あげてのクリスマス・ランチがありました。皆さん素晴らしいご馳走に与り、とても良い交わりの時が与えられ共に楽しみました。午後1時からクリスマス・プログラムが用意されていて、一同は礼拝堂へと移り、会堂には人が一杯になって、プログラムを楽しみました。

ウエルカムの祈りから始まり、クリスマス賛美に溢れ、その中でサンデー・スクールの子供達の劇に一同当時のイエス様の誕生を思いめぐらせ、大きな拍手を送りました。ハンドベルによる”Away in a Manger”はひとりひとりの心に響きました。

合間には一米牧師のメッセージがありました。尚、続いてクリスマス・コワイヤーが久しぶりに編成され、素晴らしいクリスマス賛美をご披露して下さいました。サンディエゴ教会のゴスペル・フラチームがきれいに着飾って踊った姿は確かに神様の栄光をあらわしていました。最後に会衆、一同、踊りましょうと呼びかけられ、会場は盛り上がりました。とても楽しい一時が与えられ感謝なプログラムでした。全ての栄光を主に帰します！

3. クリスマス・キャンドル・ライト・サービス

12月14日(金)夜7時より教会八尋ホールでキャンドル・ライト・サービスが行われました。教会の建物を照らすクリスマスライトは美しく、会場の入口にも綺麗に飾られ、心暖まる雰囲気にも包まれ誘い入れられました。廊下の両端伝いにも綺麗にライトが灯され、部屋へと導かれました。



入り口では各自キャンドルを渡され、クリスマス音楽の奏でる中、穏やかな厳かなイエス様の降誕を祝うに相応しい雰囲気でも、一同は静まって黙想をしていました。沢山の賛美から始まり、歌声は部屋いっぱい響き、声たからかに歌いました。

やがてキャンドルに火を灯し、大倉先生のメッセージを拝聴いたしました。沢山の御言葉は、創世記1章、イザヤ書、ルカの福音書、ヨハネの福音書からイエス様のご降誕のお話を、色々な角度から詳しく話され、その中で印象的だったのは、ヨハネの福音書1章からで、イエスは光であって、光には影はありませんと・・・。

ローソクには影がありますが、光である火の部分には影はありません、と壁に実験して見せてくださいました。実にイエス様は光であり、光そのもののお方です。先生は最後に目に見えないものに目を注ぎなさい。あなたの人生をこのお方に目を注いで歩みましょうと励ましのメッセージを頂きました。

「きよしこの夜」の賛美を最後に、当時イエス様が降誕されたあのベツレヘムの夜を心に描きながら、一同心から主のご降誕をお祝いしました。集会後には何時ものように婦人会の用意されたクリスマス・クッキーなどを頂きながら、良き交わりの時を持ちました。ハレルヤ！

4. 年越し「そば・うどん」年末感謝会

12月30日(日)は教会最後の礼拝です。礼拝後には一日早いのですが「年越しそば・うどん」年末感謝会を持ちました。教会及び婦人会の役員さん方の尊いお働きにより、数日前から奉仕者を集めて用意し、当日は素晴らしい「年越しそば・うどん」会をしていただき、感謝でした。

おいしかったこと、実に本職顔負けのお味でした。おかわりもありで、皆さんお腹いっぱいいただき、ニコニコ顔で心身ともに満たされました。やはり我々日本人はこれをいただかないと年が越せませんね。尊いお時間とご奉仕を一同心より感謝し、おいしく作ってくださってありがとうございました。ごちそうさまでした！

ラッドとし子